

週 報

1996年8月18日 聖霊降臨節第13主日

巻17 20号

1996年度教会主題

「キリスト告白に生きる」

聖句 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタイによる福音書 16章15節～16節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. キリストを証しする。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台 7丁目 8-29

電話 045-833-5323

FAX 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄

発言されたと話された。罪の赦しは悔い改めからいただける新生という福音である。

この福音の根拠として、スカルの井戸で対話したサマリヤの女と主イエスについて話された。女は人目を避けて日中に水を汲みにきた。男性を遍歴し、村人から白眼視、また差別されていたからである。ところが、主イエスは女の全てを知りつつも何の差別も偏見もなく受け入れた。女は主イエスに味わったことのない「赦しと愛」を見、そして、真顔で神礼拝のあり方を問うた。主イエスは「わたしを通して霊と真理の礼拝ができる」と答えられた。女はこれらの対話から、差別された我が身を忘れて村人に主イエスを伝道し始めた。罪赦され、無限に受容されている「愛」が女を自由へと解放したのである。

平和は力によって達成できると理解されがちだが、それは弱者の犠牲の上に成り立つ虚偽の平和である。十字架による「赦しと愛」が真実の平和を作り上げる。この主イエスに従い、平和を実現する者であれと語られた。

一牧師室から一

今年の「平和聖日」は大塩清之助牧師をお迎えして、み言葉を聴いた。先生はご自分の体験から話された。朝鮮で育った幼年時代は全くの「軍国少年」で「子科練」を志望した。家族で教会にも通っていたが、神への愛はヨーロッパ列強からアジア解放のため戦って死ぬことと矛盾なく結びついた。戦後、日本が起こした戦争はアジア侵略であったことを知り、深い絶望と罪に打ちのめされた。友人から勧められて読んだルターの「ガラテヤ書注解」で、主イエスの十字架による「罪の赦し」に目が開かれ、牧師への道を進まれた。

1967年に教団は、議長名で「戦争責任告白」を公にしたが、私は大塩先生たちの要請があったと聞いていた。先生は、罪を悔い改めなければ新しくなれないと「戦争責任告白」を出すことを強く